

主 題：救いの確信 2

聖書箇所：ペテロの手紙第一 1章8－12節

私たちは時々、自分の救いを疑うことがあります。「私は本当に救われているのだろうか？」と。ペテロはそれに答えをくれます。救いの確信をしっかりとつようと、先週に続いて今日の箇所から学んで行きましょう。

☆救われた人の特徴 8, 9節

1. イエス・キリストを愛する

「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」

「愛しており」は現在形で、継続して愛してゆくということです。神への愛を継続してもっているのです。みことばをいくつか見てみましょう。

Iヨハネ4：8 「愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」

Iヨハネ4：16 「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」

Iヨハネ4：19 「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」

Iヨハネ5：1 「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

Iコリント16：22 「主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ、来てください。」

エペソ6：27 「私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。」

これらは愛の証拠です。

私たちはこのように神の愛をもって人を愛してゆくのです。心の中から湧きあがってくるものですが、これは感情ではなく神への愛、感謝によってイエス・キリストに忠実に従ってゆくという意志です。イエスは三度主を拒んだペテロに対して「あなたはわたしを愛するか」と問われましたが、この問いは私にもされているのです。（クリスチャンの問題はこのイエスを愛さないことです。）

2. 信頼する者

「信じる」とは、ここでは信仰をもつことではなく「信頼する、あてにする、頼りにする、信用する」という意味です。これも現在形ですから、継続した信頼です。たとえ辛いことがあったとしても、神を信じていこうとする、この信仰の態度は救われているからです。また、「見てはいないけれども」はペテロはイエスを見ていますが、読者は見ていません。けれども、ペテロと同じ信仰をもっているのだと強調しているのです。生きた神との個人的なつながりが信仰なのです。

3. イエスの喜びがある

これも継続した喜びです。そして、これは「愛と信頼」の結果としてもたらされるものです。6節に「大いに喜んでいます」とありましたが、この「喜び」と同じです。すなわち、「救いの喜び」です。神から与えられる霊的な喜びです。試練の中でも喜んでゆける喜びです。そして、将来イエスに再会する喜び、永遠の祝福をもっていなさいとペテロは言うのです。

この「喜び」は「ことばに尽くすことのできない」と、この喜びは地上のものではないと言います。また、「栄えに満ちた」と、輝きに満ちた天のすばらしい喜び、神の栄光をもった喜びなのだと言います。ゆえに、この喜びをもって歩んで行くとき、人々には驚きとなるのです。なぜ、この人たちにはそのような喜びがあるのか？と。そして、私たちのうちにある神を見るようになり、神のみ栄えが現わされるのです。

ペテロは言います。地上にいながら、天の喜びをもって生きてゆけるのだと。神への愛と信頼のゆえに日々与えられる喜び、これは神との深い交わりによって得られるのです。ヨハネ15：11にイエスはこのように言われています。「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです。」と。その前の10節を見ると、「もし、あ

あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしに父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。」とあります。イエスは神のみことばに従順であったから喜びがあったのです。これが喜びの秘訣なのです。従順の結果として喜びが与えられるのです。ヨハネ 16 : 22 「あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去れる者はありません。」と。

このような喜びの結果が 9 節に書かれています。「これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」と。「得ている」とは、ほうびとしていただいているという意味で、救いのことです。「たましいの救いを得ている」から、クリスチャンは日々罪の赦しを与えられ、日々キリストに似たものへと変えられてゆくのです。ローマ 8 : 23 「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」

## ☆救いのすばらしさ 10-12 節

新約時代のクリスチャンがどれほどすばらしい祝福をいただいているか、ペテロはそれを、旧約の預言者と比較して、もう一つは、天使と比較して、私たちに教えています。

10-12 節「この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告知されたのです。」

### 1. 旧約の預言者と比較して 10-12 a 節

「預言した預言者たち」とは旧約の預言者たちのことです。新約の私たちは彼らよりすばらしい祝福を得ている、知識があるということです。知識において彼らの知らなかったことを私たちは知っているのです。彼らは、熱心に尋ね、細かく調べました。「熱心に尋ね」とは、熱心に捜し回る、神を求めるといことです。「細かく調べる」とは、人や物を捜す、聖書の中を捜す、みことばを求めるとい意味です。だれのことか、どんな時か?と捜すのです。預言者たちは自分の預言したことがよくわからなかったからです。そして、尋ね、調べた結果、彼らが分かったこと、学んだことは次のことです。

1) メシヤが来られること

2) メシヤは苦しい目に会うこと

これに関するみことばは多くあるのですが、特に次の二ヶ所を見てください。

イザヤ 53 章は苦難のしもべといわれるところです。また、詩篇 2 篇はメシヤの受難について書かれています。

3) 苦難に続く栄光が待っていること

勝利をもたらすのです。この「栄光」は複数形です。イエスの復活後の多くの栄光のことです。神が王国を築かれること、平和がもたらされること、神の栄光がこの地をおおうことなどです。イザヤ 11 章には、「エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。」と神はダビデを通して王国を築かれると預言されています。栄光にあふれる王国です。詩篇 2 篇はメシヤの勝利が書かれています。その王座は奪われないと。

また、ルカ 24 : 27 には「それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者たちから始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。」とありますが、その前の 26 節にイエスご自身が「キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光にはいるはずではなかったのですか。」と苦難のあとの栄光について語っておられます。

4) メシヤの到来のとき

後に起こること、約束された祝福の到来です。「自分たちのためではなく」とは自分の時代に起こることではないということです。「あなたがたのための奉仕」は新約の時代のことです。あなたがたに対する恵みですと、これは私たちの希望なのです。ヘブル 11 : 13 「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」。信じる者に救いが与えられ、やがて天

の祝福があるとの約束です。

☆ 彼らが分からなかったことは「救いの祝福」についてです。

新約の時代の人々が受ける祝福、救いのすばらしさなのです。なぜなら、これは「奥義」だからです。ミステリーです。奥義とは、教会の時代、恵みの時代のことです。「恵み」、それは、「イエス・キリストを信じる者はだれでもすべて、キリストによって救われ、神の家族に属する」ことです。そして、このIペテロ1:11,12にあるとおり、預言者たちは自分の語りたかったことを語ったのではなく、聖霊によって語ったのです。11節の「キリストの御霊が」とは聖霊のことです。12節bには「天から送られた聖霊によって」とあります。

ローマ8:9「けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」と「キリストの御霊」と「神の御霊」が同じ意味で使われています。

☆ 聖霊なる神が預言者たちに成したことは何でしょう？

1) 11節「あかしされたとき」とあるとおり、預言しました。

2) 12節「啓示を受けました」と、これは「神が、ある真理を人間に明らかにされる」ことです。

神以外の方法では知ることができない真理、それを明らかにされた行為、これが啓示です。そして、靈感とは、この真理を表現、記録することです。すなわち、「聖書」です。聖書は滅びることがありません。神のことばだからです。

ローマ15:4「昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望をもたせるためなのです。」

☆ これらによって新約のクリスチャンに起こったことは？

メシヤはイエス・キリストであるとの預言の成就です。ルカ10:24「あなたがたに言いますが、多くの預言者や王たちがあなたがたのを見たいと願ったのに、見られなかったのです。また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかったのです。」。12節の後半にある「福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです」とは、使徒たちによって告げ知らされて行ったということです。ルカ24:49「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」と、使徒たちは天から送られた聖霊によって告げ知らせるために出て行きました。使徒1:8に「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」とあるとおりです。そして、使徒たちは「力」を受けたのです。使徒2:14-40を見ると、ペテロが他の弟子たちと立って、「声を張り上げ、人々にはっきりと」福音を語ったことが記されています。旧約の人たちが知らなかったことを私たちは知るものとなった、これは大きな祝福です。キリストにあってすべての人が一つにされるのです。11節の後半「だれを、また、どのような時を」とは、イエス・キリストを通してということなのです。私たちはこのように旧約の人たちより多くのことを知らされています。それなら、私たちはみことばを学ぶことによって、より、この真理を知って行くのです。その熱心さが私たちにあるでしょうか？これは私たちの責任です。

## 2. 天使と比較して 12節

「それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。」と、「はっきり見たい」とは、のぞき込むという意味です。ルカ24:12に「しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、…」とあるこのことばです。また、「願っている」は、善悪に関係ない強い願望のことです。黙示録5:11-14には「多くの御使いたちの声を聞いた。」と天使たちの賛美が書かれています。キリストの贖いが完成したときです。ルカ15:10「…ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」、栄光が永遠にあるようにと。天使たちには救いがありません。救いの喜びがないのです。従って、天使たちはこの教会時代における神のすばらしいみわざを見たいと切望しているのです。そして今、現に見ているのです。救い、神の赦し、クリスチャンの歩みなどを見ているのです。

⇒私たちは旧約の人々の知らない恵みの中にいるのです。天使たちも知らない救いの喜びをもっているのです。ゆえに、責任があります。どのように生きて行くのかという責任です。神は天使ではなく、罪

をもつ私たちを用いようとされています。私たちは救いのすばらしさを覚え、救いの確信をしっかり携えて出て行くことです。

最後に、エペソ 3 : 8-10 「すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが与えられたのは、私がキリストの測りがたい富を異邦人に宣べ伝え、また、万物を創造された神の中に世々隠されていた奥義を実行に移す務めが何であるかを明らかにするためにほかなりません。これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、」と、このみことばを覚えたいものです。

ここまでは、「教理」です。続いて次回からは、救われた者はどのように生きて行くのかというその実践を学んで行きましょう。